

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学）

事業者名：社会福祉法人三多摩福祉会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
1 職務の理解	6 時間
(1) 多様なサービスの理解	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間
(1) 人権と尊厳を支える介護	
(2) 自立に向けた介護	
3 介護の基本	6 時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	
(2) 介護職の職業倫理	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	
(4) 介護職の安全	

実施計画				
カリキュラム名・時間数				実施内容
1 職務の理解	6 時間			1 職務の理解
		通学	通信	合計
(1) 同左		3		3
(2) 同左		3		3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間			2 介護における尊厳の保持・自立支援
		通学	通信	合計
(1) 同左		5		5
(2) 同左		4		4
3 介護の基本	6 時間			3 介護の基本
		通学	通信	合計
(1) 同左		2		2
(2) 同左		1		1
(3) 同左		2		2
(4) 同左		1		1

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間
(1) 介護保険制度		
(2) 障害福祉制度及びその他制度		
(3) 医療との連携とリハビリテーション		
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション		
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		
6 老化の理解		6 時間
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常		
(2) 高齢者と健康		
7 認知症の理解		6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活		
(4) 家族への支援		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	5			5	
(2) 同左	2			2	
(3) 同左	2			2	
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	3			3	
(2) 同左	3			3	
6 老化の理解		6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	3			3	
(2) 同左	3			3	
7 認知症の理解		6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左	1			1	
(2) 同左	2			2	
(3) 同左	2			2	
(4) 同左	1			1	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習:障害者総合支援制度の理解をするために、介護給付の申請から支給決定迄のフローチャートを各自が作成する	
(3) 講義のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義及び演習:言語・非言語コミュニケーションしぎゅつのトレーニングをグループ毎に行い、障害者や認知症に応じた対応方法を話し合う	
(2) 講義のみ	
6 老化の理解	
(1) 講義及び演習:例題テーマを設定し、そのテーマに基づいてグループで話し合い、発表する(例:運動能力の低下による無力感)	
(2) 講義のみ	
7 認知症の理解	
(1) 講義及び演習:認知症を理解する為に、認知症高齢者の行動や心理症状をグループで話し合って発表する	
(2) 講義のみ	
(3) 講義のみ	
(4) 講義のみ	

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(10) 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解		3 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	1		1
(2) 同左	1		1
(3) 同左	1		1
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間	
ア 基本知識の学習		10 時間	
	通学	通信	合計
(1) 同左	4		4
(2) 同左	3		3
(3) 同左	3		3
イ 生活支援技術の講義・演習		55 時間	
	通学	通信	合計
(4) 同左	3		3
(5) 同左	3		3
(6) 同左	7		7
(7) 同左	7		7
(8) 同左	7		7
(9) 同左	7		7
(10) 同左	7		7

8 障害の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 講義及び演習:障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合っ発表する	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習:老化や障害を受け入れる過程での感情や生きる意欲の形成等をテーマに、講師が事例を提示し、グループで話し合い発表する	
(3) 講義のみ	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習:事例を提示し、共に行う清掃、調理等を演習する	
(5) 講義のみ	
(6) 講義及び演習:更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣・整容の実技演習をする(適宜追加:DVDのみ)	
(7) 講義及び演習:移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習をする(適宜追加:DVDのみ)	
(8) 講義及び演習:食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習をする(適宜追加:DVDのみ)	
(9) 講義及び演習:入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、入浴・清潔保持の介助方法を考え実技演習する(適宜追加:DVDのみ)	
(10) 講義及び演習:排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習する(適宜追加:DVDのみ)	

(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) [※] (50～55時間中12時間以内)	
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4 時間
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	時間
計 (130 時間)	

(11) 同左	3		3
(12) 同左	3		3
(実習) [※]	8 時間		
介護実習			8
ウ 生活支援技術演習	10 時間		
	通学	通信	合計
(13) 同左	5		5
(14) 同左	5		5
10 振り返り	4 時間		
	通学	通信	合計
(1) 同左	2		2
(2) 同左	2		2
計 (130 時間)			

(11) 講義及び演習:利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習をする(適宜追加:DVDのみ)
(12) 講義のみ
(実習) [※]
施設介護を体験し高齢者に向き合う心構えを養う
ウ 生活支援技術演習
(13) 講義及び演習:事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表する
(14) 講義及び演習:2事例を使って、一連の生活支援を提供する際の視点、自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習する
10 振り返り
(1) 講義及び演習:研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことについて再確認し、各自発表する
(2) 講義のみ

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。